

分教室のみどり防災デー

9月15日（木曜日）、分教室では「みどり防災デー」の学習に取り組みました。

まず、いつも避難訓練で通っているルートが使えない時、どこを通ったら安全に避難できるか、新たなルートの確認をしました。ヘルメットを自分で着用し、じっくり歩いてコースを確認しました。

次は、非常食の試食準備です。

ひとり1セットずつ、アルファ化米とペットボトルの水を受け取って、分量まで注ぎました。昼食時の主食として試食もしました。

Web171（非常用伝言板）の体験も行いました。自分のスマートフォンがある生徒は自分で操作して、スマートフォンを持たない生徒は学校のタブレット端末で伝言板を探し、メッセージを読んだり書いたりしました。

どの学習も「もし、先生や保護者と一緒ではない時に被災しても、自分の身を守れる力をつけよう」というねらいの体験学習です。

実際にやってみると、意外な発見がありました。

たとえば、Web171は危険なサイトではありませんが、生徒によってはフィルターがかかっていて、自分のスマートフォンからは見ることができませんでした。

また、非常食のご飯も、食べてみたら美味しかったという生徒、慣れないものを食べることで体が重くて、ひと口がやっとだった生徒と様々な反応でした。本当に災害があって、この非常食を食べなければいけない時に備えて、平時に経験しておくことはとても大事なことでした。

分教室の生徒は自力で登下校します。途中で災害にあったら周囲に助けを求める大切さや、決まったルートで通学することの意味などを確認する、重要な学習になりました。

